

— 石橋美術館名作展 —

青木繁と近代洋画の流れ

'91年1月11日(金) ~ 2月11日(月)

開館 ● 午前9時 ~ 午後5時 (初日は午前10時オープン、金曜日は午後7時まで)
月曜日休館 (但し、2月11日は開館)
入場料 ● 一般700円 / 高次生400円 / 小中生200円 (前売りおよび団体20名様以上は2割引)



青木 繁「わだつみのいなかの宮」

黒田清輝 藤島武二 坂本繁二郎 藤田嗣治 古賀春江 佐伯祐三 など

主催 / 高松市美術館・石橋財団石橋美術館・四国新聞社・西日本放送

高松市美術館



《海の幸》 青木 繁 (重要文化財)



《黒扇》 藤島武二 (重要文化財)



《針仕事》 黒田清輝



《放牧三馬》 坂本繁二郎

— 石橋美術館名作展 — 青木繁と近代洋画の流れ

福岡県久留米市にある石橋美術館は、昭和31年に東京のプリチストン美術館の姉妹館として開館し、昭和53年には増改築され近代的な常設美術館として現在のかたちが整いました。この2館のコレクションは、故石橋正二郎氏が坂本繁二郎の勧めによって始めた個人収集作品が主体となっています。西欧近代美術を中心としたプリチストン美術館に対して、石橋美術館の展示作品は日本近代洋画が主体となっていますが、中でも久留米出身の3人の画家—青木 繁、坂本繁二郎、古賀春江—のコレクションは質・量ともに特筆すべきものです。また黒田清輝(鹿児島)、岡田三郎助(佐賀)、藤島武二(鹿児島)、和田英作(鹿児島)など、近代洋画の発展にとって忘れることのできない九州出身作家の代表的な作品が数多く展示されています。さらにこれ以後の大正・昭和期にかけて活躍した須田国太郎、安井曾太郎、佐伯祐三、小出楯重などの重要な作品もそのコレクションに含まれています。

今回の展覧会では、これらの作品にプリチストン美術館の作品を加えた計110点によって、日本近代洋画の大きな流れを展覧いたします。充実した絵画作品の魅力をも十分に楽しみ下さい。



《素朴な月夜》 古賀春江

●講演会

《青木繁を中心とした石橋コレクションについて》

1月13日(日) 午後1時30分より講堂にて

講師/ 田内正宏(石橋美術館学芸課長)

次回の展覧会

《再興第75回 院展》

3月8日(金)～3月24日(日)